



日々好日は信心から

日々好日

(令和七年九月発行)

暑さの峠は越えたのでしようか。同じお墓詣りでも炎天下のお盆とは違い、樹間を吹き抜ける風を肌と感じながらの秋のお彼岸のそれは、故人を心ゆくまで偲ぶにふさわしい。

彼岸は彼の岸、つまり仏の世界に至る修行（六波羅蜜）を為す佛道修行の日々でもあります。それは、

【布施】…施し。

【持戒】…戒律を守る。

【精進】…たゆまぬ努力。

【忍辱】…耐え忍ぶ。

【禅定】…不動のこころ。

【智慧】…正しい認識。

これは煩惱の赴くままに生きることの否定である。

お大師さまは「浮華名利の毒に慢ることなかれ、三界火宅の裏に焼かれることなかれ。斗薨して早く法身の里に入れ」と諭されています。

浮華名利とは名声や金銭欲のことであり、それにとらわれて身を亡ぼしてはならないということ。

斗薨とは衣食住の執着を退けることであり、法身の里とは大日如来の世界のことです。諸々の執着を断てば人はみな佛性を懐いた仏の子である。

仏前に供える 水は布施。塗香は持戒。線香は精進。花は忍辱。仏飯は禅定。燈明は智慧であるということも意識して供養を為せば存没ともに清々しい身となりましよう。

弘法大師のお言葉

「渤海を超越して寶岸に躋り攀ん」

(性霊集卷第七)

(煩惱の迷いの海に溺れることなく 佛の浄土によじり昇らん)



非 仏
遥 法

非 眞
外 如

即 心
近 中

何 棄
求 身

日々好日

施餓鬼壇には五色の施餓鬼幡を吊るします。お大師さまの著作「秘蔵記」に施餓鬼幡のことが詳しく説かれています。それは金剛界の五佛に由来します。(色は異説多し)

※南方・青・過去寶勝如来(寶生如来) 平等性智
【平等性智をもって、布施をもって慳貪を退除する】

※東方・黄・妙色身如来 (阿閼如来) 大円鏡智
【この智慧をもって、万徳円満し、妙なる色身をうける】

※西方・赤・甘露王如来 (無量寿如来) 妙觀察智
【説法の身となり、甘露は妙法なるが故に法器となる】

※中央・白・廣博身如来 (大日如来) 法界大性智
【周辺法界の身となり、咽喉を開寛し飲食を受容す】

※北方・黒・離怖畏如来 (釈迦如来) 成所作智
【一切衆生の為に諸々の事業を為して安樂にして怖畏なからしむ】



大師の名著「秘密曼荼羅十住心論」第一に正法念処經を引いて八種の餓鬼をあげています。

- ◎針口餓鬼・・慳嫉にして、人を雇って人を殺さしむ。
- ◎食吐餓鬼・・夫婦惑わし妬んで一人美食す。

- ◎食糞餓鬼・・不淨の食と知りつつ食わしむ者。
- ◎無食餓鬼・・糧食を断ち死に至らしめ悔恨なき者。
- ◎食水餓鬼・・酒と称して水と灰を呈し悔い無き者。
- ◎熾然餓鬼・・人の財を横奪し王に奉り狂暴を増す者。
- ◎欲色餓鬼・・淫行をもって財を得る不淨心な者。
- ◎魔身餓鬼・・邪見の法を説いて正法を信じざる者。

今年(2015年)は戦後八十年、被爆八十年ということで、お盆もお施餓鬼でも餓鬼ボトケを意識しないではおられなかったのは、供養食を享けていない精霊が無数に存在しているのではないかという疑念を強く持ったからにほかなりません。

我が国の第二次世界大戦の戦没者は軍人・軍属230万人、民間人80万人で、計310万人に上るといいます。

この中に含まれているのですが、昭和十八年六月八日に大島と柱島の海域で爆沈した戦艦陸奥では乗員121人が犠牲とされたという。

大島霊場巡拝の折、引き上げられた巨大なスクリーンや副砲を目にし、慰霊碑のままで冥福を祈り般若心經をお唱えしたことを思い出します。

それは七月三十一日付の中国新聞、山口総合版でドローン紀行・山口の遺産「いまだ解けぬ爆沈の謎」の記事を目にしたからのことですが、時を同じくして自宅の二階の部屋から、爆沈の海域と思われる当たりに船体を赤く塗った大きな船が七月二十九日の昼頃から翌三十日の朝まで停泊していたのを見ました。

これは陸奥爆沈とは何の関りはないことだと思いますが、大きな船がながく同じ位置で停船しているのを不審に思ったことでした。

当時、大島では箆口令が敷かれ、住民によって火葬されたという。東北の出身者が多かったという。慰霊碑は

一九六三年に建てられた。(中国新聞より)

広島県の原爆供養墓には現在も身元不明の七万七千体が眠っているという。また南方の島々でも未収納の遺骨が手付ずであるとも聞きます。

これでは飢えた餓鬼がボトケがうようよしていることになりません。この飢えた餓鬼が生者に仇を為すとは思いたくありませんが、このまま遺骨を放置したままでは良いとはいえません。

私にできることは何もなく、只々供養をしつかりつとめていくことしかありません。夏の終り、八月三十日の恒例のお施餓鬼にはしつかりそれをなしていきたい。こうして例年になく炎暑の夏を悔いなく終わりたい。



(当山のお施餓鬼)

高野山奥之院弘法大師御廟前奉納御写經 六五六

- 二卷奉納 岩国市装束町四丁目 福島 松代殿
- 二卷奉納 岩国市南岩国町二丁目 沖中あつ子殿
- 一卷奉納 岩国市通津 吉岡 律子殿
- (七月十一日〜八月十日奉納分)

弘法大師像付属の「水瓶」奉納

本年初盆を迎えられた左の各氏より新盆精霊菩提の為に浄財を頂戴しましたので標記の品を購入いたしました。

- 若林康一殿・小俣立志殿
- 赤石 徹殿・高橋康博殿
- 田代 修殿
- 久保田恵美子殿



今年、その姉の奉納された弘法大師像のおそらく後補されたであろう損傷した水瓶に代えるものです。御影画像に描かれている水瓶とは異なりますが、大師像にふさわしい水瓶と考えています。

塗香・洒水器(金襴袋付)購入

左の方々より、盆・中元の懇志を頂戴しましたので、標記の品を購入させていただきました。

- 葛谷文子殿・河中京子殿・末本ひろ子殿・渡部富士恵殿
- 石井靖夫殿・福島和美殿・三代博幸殿・竹原シゲ子殿
- 植月 守殿・竹本幸生殿・中岡大輔殿・藤重和子殿
- 吉岡 茂殿・宮本富雄殿・高石正喜殿・深川秀雄殿
- 中川賢二殿・重岡一雄殿・西岡良恵殿・末岡政子殿
- 板倉秀行殿・太田信幸殿・矢野峰子殿

(順不同)

凶貪欲は身を亡ぼす

昔、ある処に一人のバラモンがありました。その妻は若くして姿容艶美なり。だが、その心は欲情深く重くして淫蕩のおもいに満ちていました。

しかし、姑が居てそのおもいを為すことができないでいました。そこで姦謀をめぐらせて姑を亡きものにせんと考えたのです。

そこで姑には孝養、夫には貞節を装ったのでした。夫は妻の企てを知りませんから、言いました。

「吾が母は老身を養うに汝の力によるところが大なり」それを聞いて妻は言いました。

「今、我が家は蓄え乏しく心配なり。天の供物を得ることができれば孝養を尽くすことができます。天の供物を得るべく天に生まれる妙法はないものでしょうか」と。

夫は妻に言いました。

「バラモンの教えには巖淵に身を投じ、火を燃やし五熱にて身を炙れば天に生まれることができる」と。

妻は言いました。

「それはいいことを聞きました。姑に天に生まれて天の供物受けていただきましょう」と。

夫は妻とともに野原に大きな坑を掘り薪や柴を積み火を点け燃えること熾なる時、その坑のほとりに大会を設け多くの姑の親族を召集し、バラモンの衆も参列して鼓を打ち歌い舞って夕辺にいたり、賓客は帰りバラモン夫婦は母とともに火坑に至り母を火坑に投げ入れ、顧みることなく走り去ったのでした。

母は火坑のなかに一の隙間があり、その上に落ちて中に墮ちることはなかったのです。

燃えてない薪や柴を足掛かりにして坑より出て夜道を歩いていましたが、暗闇のなかで猛獣や羅刹に襲われてはならないと、木の上なら安心と木によじ登り夜の明けのを待ちました。

ところが何人もの盗賊が木の下にやって来て盗んできた品々の品定めをはじめたのでした。老母は恐ろしくなりましたが、気付かれないようにしていましたが、緊張のあまり咳をしたのです。

盗賊たちは悪鬼が木の上において自分たちの様子を窺っているのだと思ひ盗んだ財物を捨てて散り散りに逃げ去ったのです。

老母は夜が明けて樹木から降り、盗賊がのこした財物を拾い集めて家に持ち帰りました。バラモン夫婦は腰を抜かさんばかりに驚きましたが、それよりも姑が両手に持ち背に負うて持ち帰った財宝に目は釘付けになりました。

姑は言いました。

「私は天に生まれてこのような財宝を得ました。これを総て汝らに与えよう。私は老いの身でこれ以上持ち帰ることができなかつたけれど、火坑には財宝は無量なり。もつと欲しいなら早く火坑にいたるべし」と。

妻婦は姑の言うことを信じて言いました。

「私は更に多くの財宝を持ち帰りたい」と。

婦は愚かにも火坑に身を投じて焼爛し永没せり。

諸天は言いました。

夫人の尊ぶ処に於いて

悪逆を生ずべからず

婦の姑を害さんと欲するが如く
反つて自ら焚きて身を滅せり



あとがき

お盆参りの合間にこの寺報の制作をなしていますが、年々作業が緩慢になっています。能率もあがりませんがそれは如何ともしがたいことです。

それでもこの夏、雨も少なく庭の草木が水を欲して悲鳴をあげているように感じ、日が落ちてから庭木への散水を時々こころがけています。生気を取り戻しての喜びの声が聞かれるようで嬉しい。

令和の米騒動は落ち着いたようですが、このところの日照り続きで米どころ新潟では、稲田が地割れして稲が枯れかかっているという。

科学文明のすすんだ現代でもままならないことの一つに天候があります。それがこの世の中だと仏陀は教えられています。慢心はいただけませんが、天の公平な配剤をのぞみたい炎熱の夏である。

過般の参院選では与党が過半数割れに追い込まれました。日本人ファーストの政党が躍進し、危うさも感じます。衆参両院での過半数割れでも政権交代とならないなど、ままならないことを人一倍感じているのは最高の権力者石破首相でしょう。

酷暑の夏、三日間も雨の中のお盆参りは初めてのことでしたが、事無く終えることが出来て一息ついています。

発行者

高野山真言宗

寶池山 龍門寺

吉岡光昭



大慈悲の

み胸に眠れ

やすらかに

水子地藏を

母と頼みて

岩国市通津3634番地3 〒740-0044

高野山真言宗

寶池山 龍門寺 発行

電話 岩国(0827)38-4611